

オフィス・ワークスペースの知的生産性研究部会

ワークプレイスモデル SOFの企業FMへの 展開



オフィス・ワークスペース研究部会

坪本 裕之 つぼもとひろゆき

東京都立大学
都市環境学部地理学教室 助教

オフィス・ワークスペースの知的生産性研究部会では、ワークスペースの重要なテーマである知的生産性の向上を軸に、ワークスペースの戦略を立案し、場の構築や運営進化を可能にするツール「SOFモデル」の開発を行っている。SOFモデルはワークスタイル(S)・組織(O)・ファシリティ(F)に関わる50の項目群で構成され、知的生産性向上に対する重要度と達成度の評価を把握できる。概要は、FM推進連絡協議会編『公式ガイドファシリティマネジメント』214ページを参照いただきたい。今回は、モデルの使用例として一連の調査の結果と今後の方向性について報告する。

アンケート調査結果

本社ワークスペースの改善を行ったサービス企業A社のワーカーを対象として、50項目に関連するwebアンケート調査を施策の前後で試行した。各項目の知的生産性に対する「重要度」「達成度」と「最重要5項目」について尋ね、回答を属性に起因する認識の差や施策の効果に着目して分析した。

施策前の調査では、50項目で重要性がおおむね認識されていた。その中から最重要項目として「資質(S項目)」が最も多く、S→O→Fの順で選択されていた。達成度評価は重要度と比べて総じて低く、F項目で差が顕著だった。属性別にみると、達成度評価に回答者の所属部署や立場が強く反映されており、S項目「コンセントレーション」「コラボレーション」やF項目に部門・

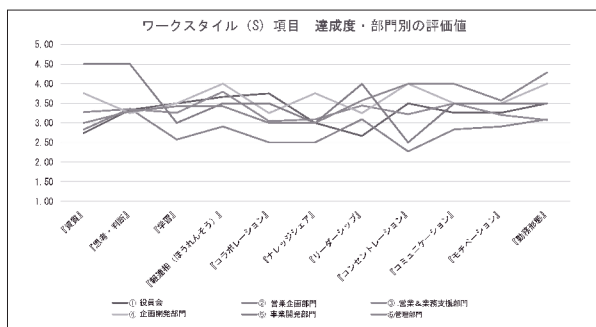
職位間の差異が確認された(図表1)。

A社では翌年にファミレスブースや集中ブース等が新設され、効果検証を目的とした調査を実施した。重要度・最重要5項目の回答に大きな変化はなかった。達成度評価は「コミュニケーション(S)」や多くのF項目で向上し、重要度との差は縮小傾向にある(図表2)。しかし、在籍年数の長いワーカーほど達成度を厳しく評価しており、施策に対応する「レイアウト(F)」や「コンセントレーション」の顕著な達成度評価の向上は確認できなかった。低利用度のブースについて設置目的や使用方法の再周知など、次の施策への課題も見出せた。

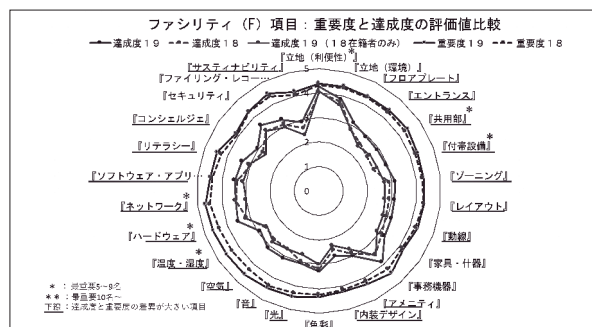
項目間の関係性把握に向けて

施策後調査の達成度回答に因子分析を適用した結果、S項目群は個々のワーカーに帰属し業務状況にダイレクトに関係する項目として、O・F項目群はワーカーを取り巻く環境的項目として認識されている可能性が示された。最重要5項目の選択結果と併せると、A社では、O・F項目は「資質」をはじめとしたS項目をサポートする関係性を持つと考えられる。この仮説は他企業・他業種では異なる可能性があり、比較しながら50項目相互の立体的な関係性を見出し、ツール開発を進める予定である。

また、当部会では、モデルの概要と使い方をまとめた『ワークプレイスガイドブック(仮称)』の作成を進めており、詳細の掲載も検討していく。◀



図表1 達成度の部門別評価値(S項目)



図表2 施策前後の評価値比較(F項目)